

1 青少年教育に関するモデル的事業

ア 実践研究事業

イ 地域の実情を踏まえた特色あるプログラム事業

自然の家ハイパーレスキューチーム スタートアップキャンプ

— 災害時に仲間を助ける力を身につけよう —

〔主催〕国立諫早青少年自然の家

〔期日〕令和4年9月17日(土)

※18日(日)までの1泊2日を予定していたが、台風14号の接近により急遽日帰りの実施に変更した。

〔活動場所〕国立諫早青少年自然の家 キャンプ村

〔参加者〕小学校4～6年生 16名(男6名 女10名)

〔講師〕諫早消防署、諫早市消防団、NPO 法人街づくり・防災諫早

〔担当職員〕寺中 拓也、葛島 隆文、西田 尚由

1)趣旨

小学校4年生から6年生の児童を対象に、災害時に救助活動を行うレスキューチームに所属したという設定の下、災害時に想定される困難な状況を工夫してチームで解決する活動を通して、災害に対する日々の備えを見直すとともに、主体的に物事を判断し行動する力や互いに協力して生き抜こうとする態度を育み、防災・減災について自主的に学び考え続ける青少年を育成します。

2)目標

- ① 災害発生時の状況を理解し、日ごろの備えの大切さに気付く。
- ② 被災時に想定される火事、怪我等への対処を学び、共助の精神を養う。
- ③ コミュニケーションを図りながらチームで課題に取り組むことで、課題を解決するための力を身に付ける。

3)プログラム

9月17日(土)	
10:30	開会式
10:40	レスキューチームレベルチェック(課題解決ゲーム)【写真①】
11:00	講義(防災のお話)【写真②】
12:00	昼食、移動
13:00	防災ミッション①(火災発生時の対応)【写真③】
14:00	防災ミッション②(ケガ人等への対応)【写真④】
15:00	防災ミッション③(火おこし体験)【写真⑤】
16:00	ふりかえり【写真⑥】
16:20	閉会式

4)事業展開

① レスキューチームレベルチェック



トランプを使用したゲームを行い、頭で考えて答えを出したり、他の参加者と協力したりする活動を行いました。初めて会ったメンバーも少しずつ笑顔が見られるようになりました。

② 講義(防災のお話)



NPO 法人街づくり・防災諫早の川浪氏より、実際に被災地支援を行った際の写真を見ながら、災害発生時の被害状況やその対応などを学びました。災害の種類によって、被害の状況が全く異なることなどを理解しました。

③ 防災ミッション①(火災発生時の対応)



諫早市消防団、諫早消防署の協力により、水消火器の体験、消防車からホースをつなげ放水する体験を行いました。消防服を着用しホースを握る子供たちの表情からは、気持ちが高まっている様子が伝わってきました。

④ 防災ミッション②(ケガ人等への対応)



諫早消防署の方の実演により、胸骨圧迫やAED の使用方法を学びました。また、ケガにより出血している人がいた時の対処について学び、実際に処置をする練習をしました。

⑤ 防災ミッション③(火起こし体験)



メタルマッチと麻ひもを使用し、火をつける体験をしました。ガスを使用する時と違い、火をつける難しさを感じました。

⑥ ふりかえり



今日学んだこと、これから頑張りたいことを共有しました。ハイパーレスキューチームの一員として、決意を新たにしました。

5) 評価

① アンケート結果(事業全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
87.5%	12.5%	0%	0%

② 参加者の声

- ・ もし人が倒れていたケガをしている人がいたら、勇気を出して声をかけてみようと思いました。今日やったことを生活に活かしていきたいです。
- ・ 学校の勉強よりいろいろ知ることができたと思う。
- ・ 人を助けることは難しいと思いました。
- ・ ライター以外に火をつける方法を知らなかったの、初めての火起こしで失敗したけど楽しかったです。
- ・ 仲間と協力してやることの大切さに気付いた。

6) 成果と課題

① 成果

- ・ 諫早市危機管理課と連携し事業内容を検討したことで、諫早消防署、諫早市消防団の方に協力をいただき、災害対応のプロフェッショナルが指導する体験を子供たちに提供することができた。
- ・ サイレンを鳴らした消防車が到着する、制服を着用した署員、団員の方に指導してもらえるなど、災害発生時の臨場感ある活動としたことで、子供たちの好奇心を高めることができ、活動に意欲的に取り組む姿が見られた。
- ・ ハイパーレスキューチームの一員であるという設定を、協力いただく講師の方と事前に共有していたことによって、職員や講師が共通理解の下に指導に当たることができ、子供たちもそのような設定を理解し、楽しんでいる様子であった。
- ・ 災害の様子が分かる写真を見せながら説明したことで、子供たちの理解を深めることができた。

② 課題

- ・ 通常の利用団体へ防災・減災体験活動プログラムとして提供できるよう、今回実施した活動をパッケージ化していく。そのためには、一つ一つの活動を整理し、ストーリーのあるプログラムとなるよう修正していく必要がある。また、各講師の直接指導がなくても臨場感ある体験となるような工夫が必要である。
- ・ 今回のキャンプで防災・減災に関する知識や技術を身に付けただけで終わらずに、参加者が防災・減災について今後自主的に学び考え続けていくような手立てを考えたい。



目標4 質の高い教育をみんなに
防災・減災教育について体験を通して学ぶ機会を提供します。



目標11 住み続けられるまちづくりを
災害によってどのような被害が起こり得るかを理解します。



目標6 安全な水とトイレを世界中に
被災時の水の確保の重要性や衛生環境の大切さについて理解します。



目標13 気候変動に具体的な対策を
気候変動が自然災害の発生に影響していることを学びます。